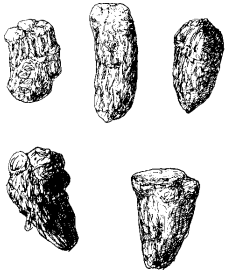


音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
中医学生薬解説、参考・使用上の注意 および中医学以外の生薬解説・生薬学解説			
さー9	<p>さんしち 三七 (田七)</p>  <p>サンシチニンジン(の)の根</p>	<p>甘・微苦・温 肝・胃</p> <p><b>散瘀止血</b> 吐血、鼻出血、血便、不正性器出血および産後の出血過多など各種の出血に、単味の粉末を吞服するか、<b>血余炭・阿膠・白芨・生地黄</b>などの止血薬と用いる「化血丹」。 外傷の出血に、単味の粉末を内服、外用する。</p> <p><b>消腫定痛</b> 打撲外傷の内出血による疼痛、腫脹、あるいは癰腫瘡瘍(皮膚化膿症)の腫脹、疼痛に、単味の粉末を吞服するか、<b>乳香・没薬・麝虫</b>などと用いる「雲南白薬」「七宝散」。</p>	<p>3~9g、煎服。外用には適量。 粉末を吞服するときは、1回1~3g。</p>
中医生薬解説			
<p><b>参考</b> 田野で収穫されるため「<b>田三七</b>」と称す。 また<b>三七</b>は3年以上の植株で、秋に種子ができる前に採取したものを「<b>春三七</b>」、冬に種子が成熟した後に採取したものを「<b>冬三七</b>」という。<b>春三七</b>の方が質がよい。 <b>三七</b>には、<b>三七・菊三七・景天三七</b>がある。 <b>三七</b>は、ウコギ科のサンシチニンジン(の)の根で、<b>菊三七</b>は、キク科のサンシチソウ(の)の根あるいは葉で、<b>景天三七</b>は、ベンケイソウ科のホソバノキリンソウ(の)の根をつけた全草をいう。 いずれも化瘀止血薬であるが、<b>三七</b>は、強力な化瘀止血薬で消腫定痛にも働き、止血療傷の要薬である。<b>菊三七</b>は、効能が<b>三七</b>と同じで薬力が弱く、<b>景天三七</b>は<b>三七</b>と同じで確実な効能があり養心安神にも働く。</p>			
<p><b>使用上の注意</b> 高価であるから、粉末を吞服するのがよく、煎剤にも粉末を冲服すべきである。 血虚無瘀には禁忌である。</p>			